

1 自己評価及び外部評価結果

ききょうユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501761		
法人名	株式会社 メッセージ		
事業所名	グループホーム アミーユ南蔵王		
所在地	広島県福山市南蔵王町5-20-25		
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果市町村受理日	平成23年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「アミーユ」では介護が必要となる以前の“普通の生活”を取り戻していただく生活の場所と考えております。そして旅行や趣味を通して、以前の楽しかった生活を取り戻していただけるよう援助を行っております。また、言葉で要望を伝える事が困難な方でも、以前の生活を参考にし、要望を捉えるように努めております。運営推進会議などを通して、地域の方に施設を開示したり、また、ボランティアの方を受け入れ、交流を図っております。

日々の暮らしの中で特に取り組んでいる事は、嚥下困難な方への食事の提供方法です。介護を必要とし行動範囲も縮小されている方は、食事が最大の楽しみの一つと考え、料理教室や試食会を開催しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スプリンクラーの設置も完了し、地域住民が消防訓練に参加する等、地域の支援が得られ、利用者の安全が保たれている。利用者への支援に対して研修し、全職員で意識を統一している。事業所は商業地域で民家の少ない地域にあるが、管理者を中心とした運営推進会議の取り組みや、地域への働きかけが実を結び、協力関係が築かれている。ソフト食研究会を立ち上げ、嚥下困難な方に対し、安易にミキサー食にするのではなく調理の工夫をしている。簡単な料理やおやつ等料理教室を開催し利用者と共に調理し、食事を楽しんでいる。事業所内は清潔が保たれている。家族は自由に訪問出来る体制となっている。同業施設と交流を持ち関係を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ききょうユニット

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人およびユニットごとの理念を構築し、更に年間目標を設定し、その人らしい生活を送れるよう支援しております。	法人の理念を基本とし事業所独自のものもある。ユニット毎に年間目標を作成し、内容の確認と情報の共有に心掛け利用者へのサービスに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が商業圏である為、気軽に立ち寄って頂けるような活動は十分に行えていませんが、回覧板のやりとり、清掃など地域の行事への参加、ご近所への挨拶、施設行事のご案内を行っております。	事業所は近隣の人との交流や挨拶を大切に、町内会の年間行事への参加、事業所の催しの呼び掛けなどを行っている。家族会の充実をゆるぎないものとし、他の施設との交流から得た知識をサービスに繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域の方々に向けて認知症に対する理解や援助方法について発信しているとは言いがたい状況です。今後は、町内会や地域の老人会を通し、行っていきたいと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催し、行事や事業所の取り組み状況などについて報告し、その中で意見をカンファレンスで検討し、援助に繋げています。より多くのご家族に参加して頂けるよう、検討の必要性を感じております。	テーマを決めた呼び掛けをし、町内会長、包括支援センター、家族等と奇数月に一度、会議を開いている。事業所の活動報告や外部評価結果の取り組み等の話し合いでサービス向上に具体的に活かす取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターと連携を取り合っています。	市の担当者が運営推進会議に出席し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。又包括支援センターとの連携も積極的に取り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内および外部の研修により、正しく理解できるよう努めております。身体拘束の弊害について学ぶ機会も持ちつつ、玄関の施錠については、やむを得ない状況においてのみ、行うようにしております。	職員は身体拘束の内容や弊害についての研修を毎年1回受けており、利用者の人権を守ることが基本であることを認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内および外部の研修により学ぶ機会を持ち、カンファレンスなどで話し合い、防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットを施設に設置し、研修会があれば参加していきます。また、必要性のある方のご家族に、制度の活用をお勧めしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時には疑問点や不安内容について、確認を行いながら、説明を行うようにしております。一度の説明では理解が難しい事も考慮にいれ、複数日かけることもあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご要望カードを設置し、いつでも意見を汲み取れるようにしております。また、会社としても『お客様相談室』を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしております。	家族向けの要望受け入れ窓口を各ユニットに設けている。家族の訪問時の会話から出された要望、意見は管理者、職員で話し合い、その取り組み状況を家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回、業務改善に関する話し合いを行っています。	職員は遠慮なく事業所へ意見要望を伝えている。出された意見は業務改善に関する窓口からリーダーに伝えられ、事業所全体で検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度(昇給制度)、社外研修参加制度、資格取得補助制度を設けております。また、出産育児休業や配偶者出産休暇など、子育て支援制度も行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、ケアなどについての内部研修を行っており、また、外部研修の案内をし、希望者に参加してもらっております。資格取得補助制度も設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の意見交換は行っております。他の事業者同士の情報交換は、少しずつ行っている状態です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしております。来訪時には出来るだけ話をする機会を作り、お聴きする姿勢をもつようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何に困っておられるか、どうされたいのか伺い、現在どのような支援を必要としているかを見極め、どのようなサービスを利用すれば解決できるかを、一緒に考えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に営むという認識のもと援助を行っております。ご自分で出来る事はご自分で、または職員と一緒にして頂き、日々生きがいのある生活づくりを、連帯感を持って支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、随時、ご家族に報告し、状態の把握をして頂き、援助についてもご家族も一緒に考えて頂いております。定期的に家族会を開催し、ご家族同士の交流も出来るような場を設けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂き、今までの生活が継続出来るように努めておりますが、十分とは言えない状況です。出来るだけご家族や馴染みの方々に来て頂けるような施設づくりに努めております。	これまでの生活との関わりが薄くならないよう、職員が配慮し馴染みの人が訪問できるようにしている。昔からの趣味を継続する人やお茶会を楽しむ人が訪れて生活に活気がある。他との交流が不可能な場合は家族に協力を得て孤立しない対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も共同生活者の一人として、入居者様を支えるようにしています。その中から入居者様同士の関係を把握し、職員が橋渡し役となって入居者様同士が関わりあえるようにしております。気の合う入居者同士で散歩やフィットネスに日常的に参加、また外出を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了(退去)後は担当ケアマネージャーやソーシャルワーカーの方々と相談しながら、継続した関わりが必要なケースについてはフォローしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族から生活歴を伺い、希望や思いを把握するとともに、ご本人の意向に沿うように努めております。また、困難な入居者様には態度や表情などから把握するように努めております。	利用者の本音を汲み取り、理解することに努めている。発語、訴えの出来ない利用者には声かけを大事にし、生活暦を参考に、態度や表情から汲み取っている。	職員は利用者が個人的に希望する場所への外出等、要望を実現し、一人ひとりの利用者に寄り添う取り組みの必要性を感じている。職員の更なる取り組みを支援し、体制の構築を期待したい
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談、面談、契約時などに今までの生活について伺うようにしております。ご本人、ご家族、親戚や近所の方、ケアマネージャーなど、ご本人をよく知っている方々から様々な情報を頂くようにしております。馴染みの家具を持って来て頂いたり、趣味活動をされています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を個別介護記録に記載し、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、介護計画を作成し、入居者様、ご家族、主治医などの意見を頂きながら、カンファレンスなどで話し合い、計画作成しております。	週1回カンファレンスをし、担当者が意見を出して前月のチェックをし、見直している。医師、家族、利用者の意見も聞き、利用者主体の介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	既定の個別介護記録に日々の生活の様子を記入しております。また、週一回のカンファレンス、三ヶ月に一回のモニタリングにて、介護計画の見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の主治医への受診や、ご希望の理美容院へはご家族対応となっておりますが、ご家族の状況により、職員が行うなど、柔軟な対応が出来るようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の今までの生活、現在の状況において必要な場合は、民生委員の協力を仰ぐようにしております。また、ボランティアの方を積極的にお招きし、演奏会などを開催して頂いたりなど、潤いのある生活づくりを支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人およびご家族が医療機関の選定をされています。事業所としては、適切な医療を受けられるように助言などを行っております。かかりつけ医と訪問診療以外でも、いつでも相談できるよう、連携しております。	利用者と家族が医療機関を決めている。事業所は常に利用者が適切な医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師を中心に健康管理を行っております。また、適切な受診や看護が受けられるよう、日々の生活の状態の把握し、情報の共有に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を作成し、ご本人の様子を説明しております。また、定期的にお見舞いに行き、状態を把握し、その際には担当医師、看護師、ソーシャルワーカー等とも話をする機会を設けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いの機会を持つようにしております。また、早期に話し合いを行い、重度化した際の指針を作成し、職員間での方針の共有に努めています。	事業所は看取り経験がある。訪問看護師から知識を得て対応出来るよう心がけている。重度化した場合の対応の話し合いを早期にし、関係者の意向がズレないようにしている。状況の変化があった場合は再度、確認に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、マニュアルを作成し、研修を行っていますが、定期的には行っては行っておりません。救急救命講習会への参加をするように心がけております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応マニュアルの作成、更新を行っており、災害発生を想定した避難訓練を年2回行っています。近隣の方々に避難訓練のご案内をし、参加して頂いております。	スプリンクラーを設置し、消防署から避難訓練指導を受け、職員が実際に上階から脱出訓練を実行した。夜間想定での訓練も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を守るような言動で接するようしております。個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づいて取り扱いを行っております。	職員は利用者の人格を尊重し生活のリズムを崩さないよう、タイミングの合った接し方を心掛け、声かけが大切だということを実感している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が理解し決定出来るよう、お一人お一人に合ったコミュニケーション手法により説明を行い、自己決定を尊重するようしております。また、自己決定しやすい環境づくりにも留意しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活習慣に応じて援助をスケジュール化してはいますが、趣味活動など、その日の様子、希望によって臨機応変に対応するようしております。また援助を行う際に説明をしたうえで行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに合わせ、着替えや化粧品などの援助を行っております。理美容院についても、ご本人の望まれる店に行けるよう、ご家族にも協力して頂いております。訪問美容を利用されている入居者様も多くいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	保健衛生上、通常の食事は配食会社への委託を行っておりますが、イベントとして食材の調達から調理までを行うようしております。職員も一緒に食事をとり、入居者様の好みに合わせた食事の提供に心がけております。また、準備や片付けについては、入居者様に協力して頂きながら行っています。	職員は利用者と共に食事をし、準備や片づけも一緒に行っている。嚥下困難な方への食事について、安易にミキサー食にすることなく、形を残して食べやすい食事を提供するためにソフト食研究会を立ち上げている。又、料理教室を開催し、おやつ等を利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた食事形態の工夫を行い、一度の食べる量が少ない方には補食を提供するなど、摂取できるように取り組んでいます。その方の体調に応じて水分摂取量の記録を残し、一日を通じて確保出来るよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防の為にも一人一人の状況に応じた補助具を使用し、口腔ケアを行っております。また、必要な方には定期的に歯科衛生士によるケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、出来るだけ自然な形で排泄が出来るように努めております。	トイレでの排泄の自立をモットーとし、一人ひとりの排泄パターンを把握した支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては薬剤だけに頼るのではなく、運動励行、水分摂取、食物繊維の摂取など生活面から一人一人に合った支援に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望の時間に入浴できるように配慮しております。	一人ひとりの希望を考慮に入れた入浴の対応をしている。清潔を保つため家族の協力のもと個人に合った入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように温かい飲み物を提供したり、室内の温度や湿度、明るさの調節を行っております。その方の生活習慣やご要望の就寝時間に沿って、援助を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人が飲んでいる薬の情報について確認し、また、薬剤師から説明を受けるなどして、理解に努めております。また、薬の変更時には状態の観察を特に行うようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基本に、一人一人に合った役割を出来るだけ持って頂けるように配慮しております。料理教室やミニ音楽会など定期的に開催し、日々の生活の中での役割を大切にしながら、ハレの日の演出も行うようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間に限りはありますが、希望に応じて散歩や買い物などにお連れしています。希望を言われない方については定期的にお誘いしています。また、思い出の場所への外出やご帰宅、初詣やお花見など、ご家族参加を含む小旅行を企画しております。	関連する事業所全体で小旅行を企画し、利用者と家族が参加出来る外出の支援を行っている。散歩や買い物等日常的に一人ひとりの希望に合った外出対応ができる仕組みとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族のご理解を頂き、個人でお金を所持しておられる方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のお取り次ぎを行ったり、ご本人からして頂いたりもしており、居室に電話を設置されている方もおられます。手紙を書かれたり投函などの支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や音や光については入居者様にその都度聞きながら対応しております。花を活けたり、季節感を味わえるような装飾を施し、心地よく過ごして頂けるように工夫しています。	共用空間は清潔に保たれ整理整頓も出来ている。利用者は職員の行き届いた配慮のもと季節感を味わいながら心地よく過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、一人でゆっくり過ごせるスペースもあります。また、ベランダにあるプランターの花が見えるよう、椅子を置いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての方が使い慣れたものを持参されてはいますが、ご家族とお話し、写真やなじみの物を持って来て頂けるよう取り組んでおります。また、ご本人が過ごしやすいように家具の配置を工夫したり、好みに合わせた家具を使用させて頂いています。	職員は家族との意思疎通を大切にし、利用者が居心地良く暮らせるように一人ひとりに合わせた工夫を心掛けている。利用者が自分の好みに合った生活が出来る仕組みとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置しておりますが、共有スペースは広い空間となっている箇所が多く、安全とは言い難い面もあります。下膳がしやすいようワゴンを使用して頂いたり、わかり易いようトイレの表示をするなど、一人一人の生活動線の把握に努め、身体機能を活かして頂けるよう、工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

はまゆうユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501761		
法人名	株式会社 メッセージ		
事業所名	グループホーム アミーユ南蔵王		
所在地	広島県福山市南蔵王町5-20-25		
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「アミーユ」では介護が必要となる以前の“普通の生活”を取り戻していただく生活の場所と考えております。そして旅行や趣味を通して、以前の楽しかった生活を取り戻していただけるよう援助を行っております。また、言葉で要望を伝える事が困難な方でも、以前の生活を参考にし、要望を捉えるように努めております。運営推進会議などを通して、地域の方に施設を開示したり、また、ボランティアの方を受け入れ、交流を図っております。

日々の暮らしの中で特に取り組んでいる事は、嚥下困難な方への食事の提供方法です。介護を必要とし行動範囲も縮小されている方は、食事が最大の楽しみの一つと考え、料理教室や試食会を開催しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

はまゆうユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、ユニット独自の理念を構築し、更に年間目標を設定し、その人らしい生活が送れるように支援しております。また、カンファレンスで定期的に確認し、共有、実践に取り組んでおります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が商業圏である為、気軽に立ち寄って頂けるような積極的な活動は十分に行っていませんが、自治会に加入し回覧板のやり取りや、清掃など地域の行事への参加を行っております。また、ご近所への挨拶や施設行事の案内など行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域の方々に向けて認知症に対する理解や援助方法について発信しているとは言い難い状況です。中学生の職場体験などボランティアの受け入れを積極的に行ってはいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催し、行事や事業所の取り組み状況などについて報告し、その中での意見をカンファレンスで検討し、援助に繋げるよう努めております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターと連携を取り合っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内および社外の研修により、身体拘束の弊害などについて、正しく理解するよう努めております。そのうえで玄関の施錠については、やむを得ない状況においてのみ、行うようにしております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内および社外の研修により、学ぶ機会を持ち、カンファレンスなどで話し合い、防止に努めております。管理者と職員同士で情報の交換を細やかに行い、防止への意識を高めるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度パンフレットを施設に設置し、研修会があれば参加していきます。また、必要性のあるご家族に、制度の活用をお勧めしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時には疑問点や不安内容について確認を行いながら、説明を行うようにしております。入居者様およびご家族の希望や状況に応じて、複数日かけて行うこともあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご要望カードを設置し、いつでも意見を汲み取れるようにしております。また、会社としても『お客様相談室』を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回、業務改善に関する話し合いを行っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度(昇給制度)、社外研修参加制度、資格取得補助制度を設けております。また、出産育児休業や配偶者出産休暇など、子育て支援も行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、ケアなどについての内部研修を行っており、また外部研修には希望者に参加してもらっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の意見交換は行っております。他の事業所同士の交流する機会は少しずつ行っている状態です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時から話を聴く機会を積極的に設けております。入居後も日常的に話を伺うようにし、ご本人の思いの変化にも配慮しながら、信頼関係の構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしております。入居者様およびご家族、関係者様からより多くの思いを受け止め、信頼関係の構築に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何に困っておられるか、どうされたいのか伺い、現在どのような支援を必要とされているのかを見極め、どのようなサービスを利用すれば解決できるかを一緒に考えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に営むという認識のもと援助を行っております。洗濯物をたたむ、下膳をされるなど、ご本人の負担にならない程度で、その方に合った役割を持って頂きながら、連帯感を持って支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、随時、ご家族に報告し、状態を把握して頂き、援助についても一緒に考えて頂いております。毎月、近況報告を兼ねて手紙を送付し、また、来訪時に日々の様子をお伝えしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂き、今までの生活が継続出来るように努めておりますが、十分とは言えない状況です。入居者様の中には、ご友人が定期的にご来訪して下さっている方もおられ、関係が継続されるよう、おもてなしをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も共同生活者の一人として入居者様を支えるようにしています。入居者様同士の関係を把握し、職員が橋渡し役となり、入居者様同士が関わりあえるようにしております。関わりを持つのが困難な方は孤立しないよう職員が支えるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了(退去)後は、担当ケアマネージャーやソーシャルワーカーの方々と相談しながら、継続した関わりが必要なケースについてフォローしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族から生活歴を聴き、希望や思いを把握するとともに、ご本人の意向に沿うように努めております。また、困難な入居者様には、態度な表情などから把握するように努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面談、面談、契約時など今までの生活について伺うようにしております。ご本人、ご家族、親戚や近所の方、ご友人、ケアマネージャーなど、ご本人をよく知っている方々から様々な情報を頂くようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を個別介護記録に記載し、また、週1回のカンファレンスなどでの現状の把握、毎月、介護計画の見直し・更新を行っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、介護計画を作成し、入居者様、ご家族、主治医などの意見を頂きながら、カンファレンスで話し合い、計画作成を行っております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	既定の個別介護記録に日々の生活の様子を記入しております。また、週1回カンファレンスを行い、情報を共有し、介護計画の見直し、介護の実践を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のかかりつけ医受診や、ご希望の理美容院へはご家族対応となっておりますが、ご家族の状況により、職員が行うなど、柔軟な対応が出来るようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方のいままでの生活、現在の状況において必要な場合には、民生委員の協力を仰ぎ、支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人およびご家族が医療機関の選定を行っております。事業所としては、適切な治療を受けられるように助言などを行っております。かかりつけ医とは、診療以外でもいつでも相談できるよう、連携しております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師を中心に健康管理を行っております。また、適切な治療や看護が受けられるよう、日々の生活の中での状態の把握に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を作成し、ご本人の様子を説明しております。定期的にお見舞いに行き、状態を把握し、その際には担当医師、看護師、ソーシャルワーカーの方々とも話をする機会を設けております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医および協力医療機関と日々事業所として出来ることと出来ないことについて、早い段階から話し合いや情報交換を行い、最期までより良い日常が過ごせるよう、協力していく体制を整えております。また、入居時より話し合いの機会を持つようにしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えマニュアルを作成し、研修を行っておりますが、定期的には行っていません。地域で開催される救急救命講習会などへの参加をするよう心がけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応マニュアルの作成、更新を行っており、災害発生を想定した避難訓練を年2回行っております。近隣の方々に避難訓練のご案内をし、参加して頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を守るような言動で接するようしております。個人情報取り扱いについては、個人情報保護法に基づいて取り扱いを行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が理解し、決定できるようなコミュニケーション手法により説明を行い、自己決定を尊重するようしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活習慣に応じて援助をスケジュール化してはいますが、例えば食事時間など、その日の様子、希望によって臨機応変に対応するようしております。また、援助を行う際に説明したうえで行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに合わせ、更衣や整容などの援助を行っております。理美容院についても、ご本人の望まれる店に行けるよう、ご家族に協力して頂いております。訪問美容を利用されている入居者様も多くいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	保健衛生上、通常の食事は配食会社への委託を行っておりますが、イベントとして食材の調達から調理までを行う機会を設けるようしております。食事が楽しみのひと時になるよう、一緒に食事をしたり、片付けをして頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じ、食事時間の変更や食事形態の工夫を行い、摂取できるように取り組んでいます。また、摂取量を記録し、職員全員での情報の共有に取り組んでおります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防の為に一人一人の状況に応じて、口腔ケアの援助を行っております。また、必要な方には定期的に歯科衛生士によるケアも行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄パターンを把握し、出来るだけ自然な形で排泄が行えるように努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては薬剤だけに頼るのではなく、運動励行・水分摂取・排便に良いとされる食品の摂取など、生活面から一人一人に合った支援にも取り組んでおります。排便の間隔の把握に努め、その方に合った排便管理の実践を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様一人一人の希望の時間に入浴できるように配慮しています。しかし、皆様が安全に楽しみを持って入浴して頂くため、ある程度スケジュール化させて頂いております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように温かい飲み物の提供をしたり、室温の調整、排泄介助の時間の調節などの工夫をしています。ご要望の就寝・起床時間に沿って援助を行っております。その時々状況に応じて、日中にも休息時間をとって頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人が飲んでいる薬の情報について確認し、また、薬剤師から説明を受けるなどして、理解に努めております。薬の変更時などには状態の観察を特に行うようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基本に、出来るだけ役割を持って頂けるように配慮しております。日々の生活の中での楽しみや役割を大切にしながら、行事など、ハレの日の演出も行うようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間に限りはありますが、天候や希望に応じて散歩や買い物などにお連れしております。希望を言われない方については定期的にお誘いしております。お花見やもみじ狩りなど、季節に応じた外出にも積極的に誘っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解を頂き、個人でお金を所持しておられる方もいます。また、普段は所持をご希望でなくても、旅行の際には、お土産などご自分で支払いをして頂けるよう準備して頂くなど、ご家族に協力を頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用について制限はなく、電話のお取り次ぎを行ったり、ご本人ご要望の際は電話をかける援助を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光については入居者様にその都度伺いながら対応しております。清潔感に留意し、また、季節感を感じられるような花を活けたり、写真を飾ったりなど、心地よく過ごして頂けるように工夫しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、一人でゆっくり過ごせるスペースもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての方が使い慣れた物を持参されているわけではありませんが、ご家族とお話をし、写真や馴染みの物を持って来て頂けるよう取り組んでおります。また、ご本人が過ごしやすいように家具の配置を工夫したり、好みに合わせた家具を使用させて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置していますが、共有スペースは広い空間となっている箇所が多く、安全とは言い難い面もあります。一人一人の生活動線の把握に努め、身体機能を活かして頂けるよう考慮しております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		ご利用者が個人的に希望する場所への外出等要望を実現し一人ひとりのご利用者に寄り添う取り組みの必要性を感じている。	ご利用者やご家族のご意見ご希望を聴取し実現する事の継続。	“アミーユのサービス向上に向けたご意見・ご要望カード”を活用し、ご要望をくみ取ると同時に実現できているか、カンファレンスの見直しを行っていく。	2か月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。